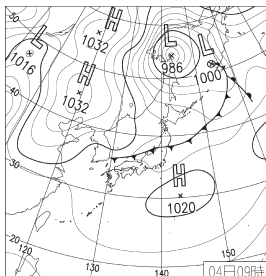


日々の天気図

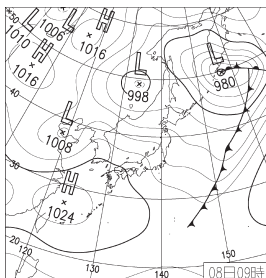
— No. 195

2018年4月

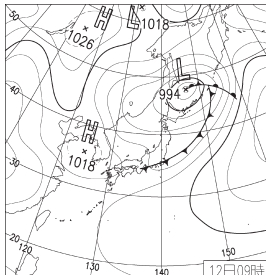
- ・8日、新潟・石川県で竜巻・突風
- ・14～15日、各地で大雨・強風、家屋損壊や倒木等の強風害相次ぐ
- ・19日、霧島山の硫黄ガス噴火
- ・24～25日、西～東日本で大雨、かけ崩れ多発、浸水等で交通障害も
- ・3月に続き月平均気温高く、関東、東北の20地点で4月の記録更新
(気象庁予報部予報課)



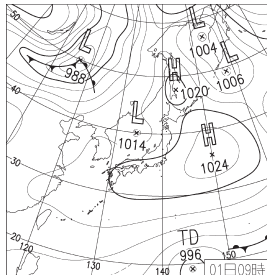
4日(水)前線が本州を南下
西日本～東日本の日本海側を中心に曇りや雨、北日本は気圧の谷の影響で曇りや雪。その他は概ね晴れ。最高気温は沖縄～東日本で平年より高く、東京は26.2℃で今年初の夏日。



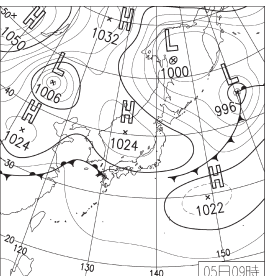
8日(日)北日本に寒気入る
上空約5000mで-30℃以下の寒気が北日本に入り北陸や北日本では雪や雨。山陰など西日本の一部でも雨や雪。午後には高気圧が張り出し西日本は天気回復、九州でも一部で冬日。



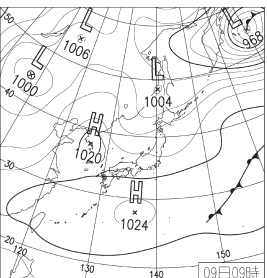
12日(木)奄美で非常に激しい雨
暖かく湿った空気の影響で、鹿児島県吉仁屋で明け方53.5mm/1h。その他の地方は晴れて気温が上がリ、九州や関東、静岡県などで6月下旬並の暑さ。北日本数地点で黄砂観測。



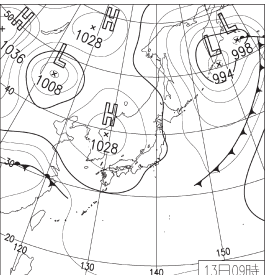
1日(日)彦根市でサクラ満開
沖縄～東日本は帯状高気圧に覆われて概ね晴れ、東日本では最高気温が平年より10℃以上も高く6月上旬並の所も。北日本は気圧の谷や低気圧の影響で一部を除き曇りや雨や雪。



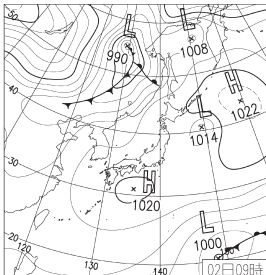
5日(木)新燃岳で爆発的噴火
前線を伴った低気圧により西日本は曇りや雨。その他の地方は晴れや曇りだが、関東を中心に寒気が入り、最高気温は前日より10℃前後低下。新潟市でサクラ満開。



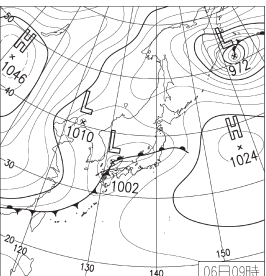
9日(月)島根県で震度5強
沖縄～東日本太平洋側は高気圧の圏内で晴れや曇り。一方、本州の日本海側や北日本は気圧の谷の通過で雨や雪。最高気温は全国的に平年並か低く、2月中旬並の所も。



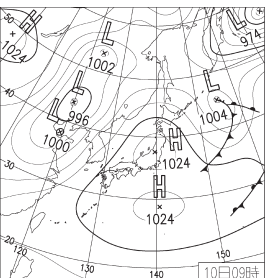
13日(金)沖縄県で大雨
沖縄県宮古島では32.5mm/1hの雷を伴う激しい雨で日降水量92.0mm。その他の地方では高気圧に覆われ概ね晴れ。気圧の傾きの大きい栃木県奥日光で最大瞬間風速22.8m/s。



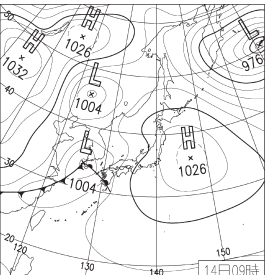
2日(月)初夏の陽光続く
日本付近は高気圧に緩やかに覆われ、全国的に晴れて気温上昇。最高気温は大分県犬飼で27.1℃など6月中旬並の所も。長野市でサクラ満開。福島・福井市ではサクラ満開。



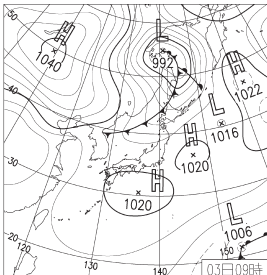
6日(金)広い範囲で荒れた天気
前線を伴った低気圧が日本海沿岸を東に進み、全国的に曇りや雨、北日本は雪。西日本～東日本で南風が強くなり、最大瞬間風速が25m/sを超えた所も。長野市でサクラ満開。



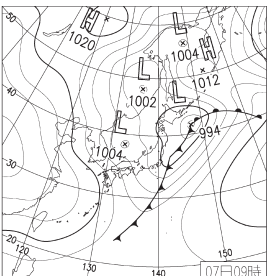
10日(火)広く高気圧圏内
西日本～東北の天気は概ね晴れ。西日本で最高気温が6月上旬並の所も。全国的に風が強くなり愛媛県瀬戸では、最大瞬間風速22.7m/s。金沢市でウグイス初鳴、前橋市でツバメ初見。



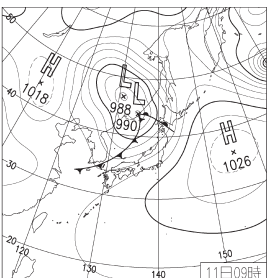
14日(土)北海道で震度5弱
前線を伴った低気圧が発達しながら日本海に進み、雨は九州から夜には北海道まで広がる。九州では激しい雨が降り日降水量100mmを越す所も。前橋市でウグイス初鳴。



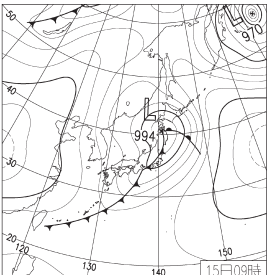
3日(火)北日本を寒冷前線南下
東北北部～北海道では曇りや雨。沖縄～東日本は高気圧に覆われて概ね晴れ。東北では上空約1500mで平年より10℃以上高い暖気が流入し福島県浪江で25.9℃など夏日の所も。



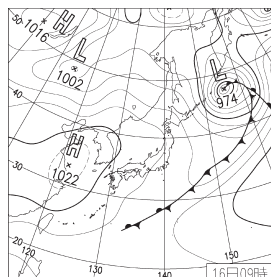
7日(土)沖縄～北陸で黄砂観測
石垣島で視程9kmなど黄砂観測20地点。西高東低の気圧配置で西日本上空約1500mには-6℃近い寒気が南下。広島県八幡で日降雪量18cm。九州では最高気温が1月下旬並の所も。



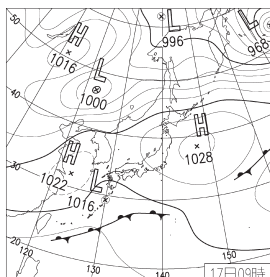
11日(水)全国的に天気下り坂
前線を伴った低気圧が日本海北部を東北東に進んだ影響で、全国的に曇りや雨で雷を伴う所も。西日本～北日本は南風が強まる。松江で黄砂観測。山形市でサクラ満開。



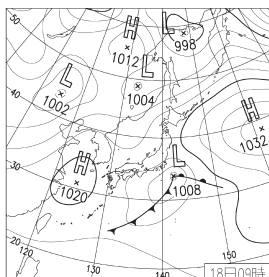
15日(日)広い範囲で荒れた天気
低気圧や前線の通過で全国的に風雨が強く、北海道えりも岬で最大瞬間風速36.7m/s。静岡県富士では41.5mm/1hの激しい雨。福岡、長崎などで黄砂を観測。



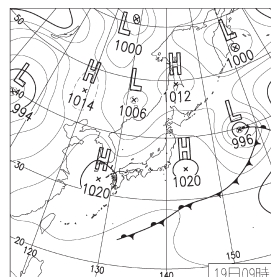
16日(月)西日本～東日本で黄砂
低気圧が千島近海に進み、西から高気圧が張り出す。北日本の日本海側や北陸地方の一部で雨の他は全国的に晴れや曇り。最高気温は全国的に平年並か平年より低く経過。



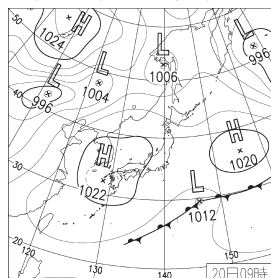
17日(火)盛岡・秋田市サクラ開花
夜には日本の南に停滞する前線上に低気圧が発生して北東進。沖縄～東日本は曇りや雨。北日本は高気圧に覆われて日中は概ね晴れ。引き続き西日本の18地点で黄砂を観測。



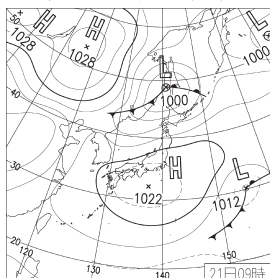
18日(水)西から天気回復
前線を伴った低気圧が伊豆諸島から日本の東を北東進。東日本太平洋側や伊豆諸島では日降水量80 mm前後の雨が降ったが、夜には天気回復。山形市でタンポポ開花。



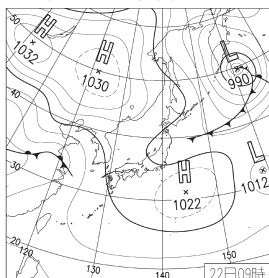
19日(木)霧島山(硫黄山)で噴火
高気圧に覆われ沖縄～東日本は晴れ。北日本は夜には気圧の谷の影響で曇りや雨。霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺)で15時39分頃、噴火発生。青森市でサクラとウメ開花。



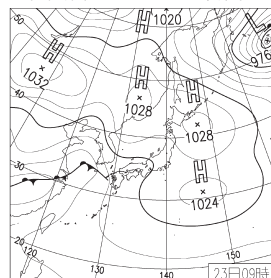
20日(金)全国的に晴天
日本付近は高気圧に広く覆われ、全国的に概ね晴れ。各地で気温上昇し、大分県日田で最高気温30.8℃など、今年初めての真夏日が7地点。盛岡・秋田市でサクラ満開。



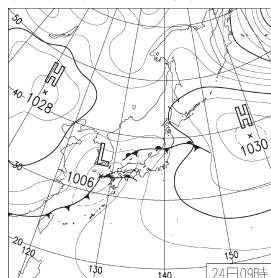
21日(土)西日本～東北で真夏日
日本の南の高気圧に広く覆われ、全国的に晴れ。西日本～東北で気温が上がリ、全国27地点で真夏日となったほか、4月の最高気温の記録を更新した所も。網走市でヒバリ初鳴。



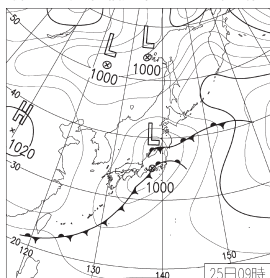
22日(日)青森市でサクラ満開
北日本の一部や沖縄・奄美を除き高気圧に覆われ晴れ。東日本～東北の上空約1500 mに平年より約10℃高い暖気流入。群馬県館林の最高気温32.1℃など全国28地点で真夏日。



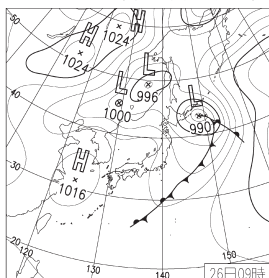
23日(月)西から天気下り坂
東シナ海の前線が夜には西日本へのび、西～東日本では夕方以降に雨が降り出す所も。一方、高気圧に覆われた北海道はほぼ終日晴天。函館・秋田市でウグイス初鳴。



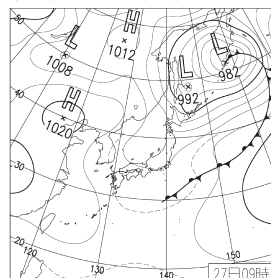
24日(火)西日本で大雨
前線を伴った低気圧が接近し西日本～東北まで雨。西日本の一部で激しい雨。高知県繁藤では4月の1位となる日降水量264 mm。沖縄・奄美は南下する前線の影響で猛烈な雨も。



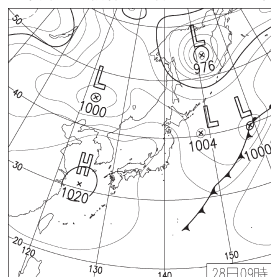
25日(水)低気圧と前線が通過
全国的に雨または曇り。四国から本州南岸にかけて激しい雨。静岡県天城山の日降水量217 mm。東京都大島で最大瞬間風速28.5 m/s。北海道函館市でウメとサクラが同日開花。



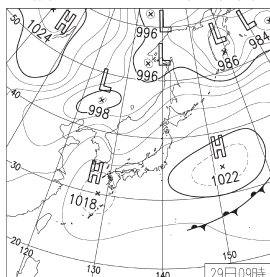
26日(木)札幌市でサクラ開花
東シナ海の高気圧が本州に張り出し、沖縄～東北は晴れや曇り。北海道は、低気圧の影響により所々で雨。最高気温は全国的に平年並だが、関東では6月下旬並の所も。



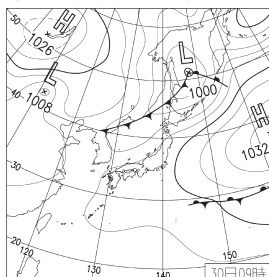
27日(金)上空を気圧の谷通過
四国・近畿～東北南部は湿った空気の影響で一部を除き曇り。夕方からは所々で雨や雷雨。その他は概ね晴れ。北日本では最高気温が7月並の所も。帯広市でサクラ開花。



28日(土)東日本以西で夏日
東シナ海の高気圧が張り出し、全国的に晴天が広がリ気温上昇。東京は最高気温26.1℃で今季7日目の夏日となり、4月の夏日日数記録更新。帯広市でサクラ満開。



29日(日)全国的に晴れ
高気圧に覆われ沖縄の一部などを除きほぼ快晴。降水を観測した地点無し。気温も上がり東～北日本では最高気温が7月並の所多数。室蘭市でサクラ開花、札幌市でサクラ満開。

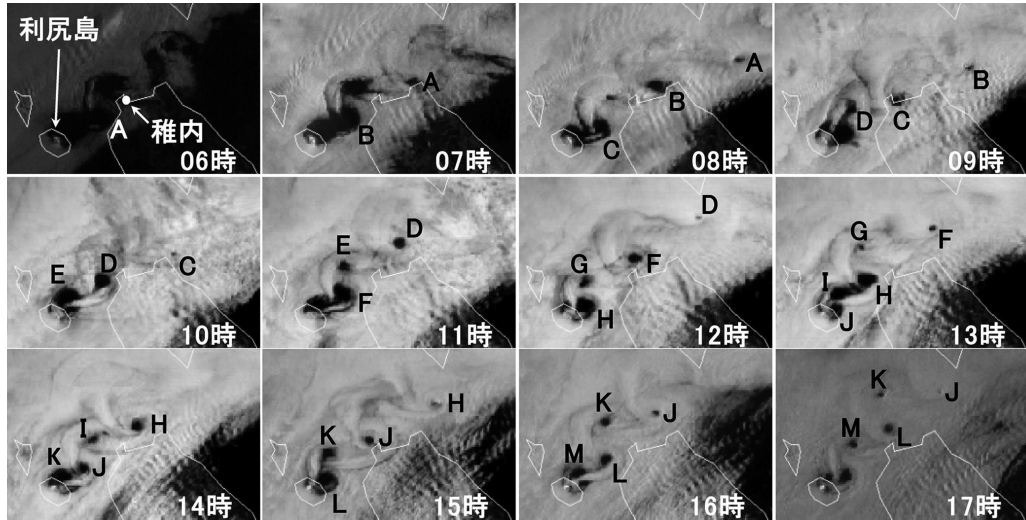


30日(月)北海道で真夏日
全般に晴れたが、奄美は湿った空気に伴う雨。西～東日本は上空の寒気に伴う雲域が通過し九州中心に雨。北海道は前線の雨雲が南下。北海道女満別の最高気温30.2℃は4月1位。

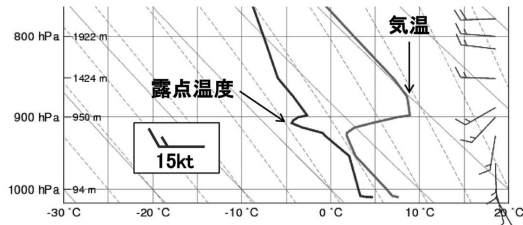


今月のひまわり画像—2018年4月

稚内付近を通過したカルマン渦



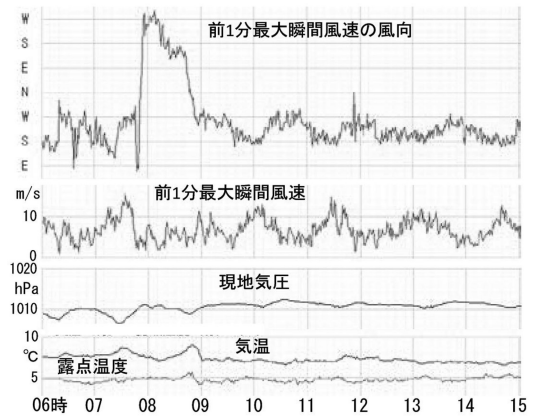
第1図 2018年4月19日06~17時（日本時間）の宗谷海峡付近の可視画像，記号A~Mは追跡した雲渦。



第2図 19日09時の稚内のエマグラム。

2018年4月19日，可視画像で北海道利尻島の北東側に雲渦を確認することができた（第1図記号A~M）。第2図は同日09時（日本時間）の稚内地方気象台（第1図06時の○印）のエマグラムで，利尻島（利尻山標高1721 m）の中腹にあたる920~900 hPa（高度約770~950 m）付近に顕著な逆転層が存在していた。雲底高度は稚内空港（稚内から東南東約10 km）の観測から約300 mで，雲の厚み約500 mの層雲が広がっていた。当日朝の850 hPa面の高層天気図などを見ると，日本海北部から北海道付近はリッジ場となっていて，下層に沈降が生じて顕著な逆転層が形成され，利尻島の風下にカルマン渦が可視化されたと考えられる。

第3図は19日06~15時の稚内の風，現地気圧，気温及び露点温度の1分値の時系列変化図である。第1図の雲渦A~Cが稚内付近を通過して，現地気圧が



第3図 19日06~15時の稚内における風，現地気圧，気温及び露点温度の1分値の時系列変化図。

弱いV字型の底を打った06時20分，07時25分，08時45分にそれぞれ対応していた。気圧が極小になる頃から北西~南西の風が吹き始め，強まる過程で気温の上昇と湿度の低下が起きていた。気温の上昇と湿度の低下は，稚内付近が雲渦の眼の中に入って晴れていたことも一因と考えられる。

（気象庁予報部予報課 原 基）